



第1回

岡山済生会子どもメディカルラリーが 開催されました

8階東病棟看護師長 豊田 由紀



昨年準備していた子どもメディカルラリーが開催されました。以前より子どもたちに心肺蘇生法を教えることができないかと思っていましたが、大阪府済生会千里病院の子どもメディカルラリーを見学し、当院でぜひ開催したいと思いました。千里病院の方からは、岡山での開催に協力してくださいというありがたい言葉をいただきました。ラリーの実際を自分の目で見て、子どもたちが楽しく学び、1日でたくましく成長している姿に、子どもたちの計り知れない可能性を感じました。

当日は3人1組で10チーム、合計30人の子どもたちが参加してくれました。午前中は心肺蘇生法、外傷の応急処置と119番通報の講義と演習を行いました。昼食をとったあと、午後からはラリーの開始です。午前中に学んだことを活かして、仮想の事故現場を作り、そこに来た子どもたちが、自分たちだけで救急要請や処置を行い、得点を競いました。5つのブースがあり、ST(ステーション)1ではプー

ルに来ていた男性が心肺停止になった想定で、救急要請と心肺蘇生を行う、ST2は事故現場に出くわした子どもたちが、救急要請と外傷の応急処置を行う、ST3では工事現場という危険区域で自分たちの安全を確認しながら、けがをした人をどのように助けて、けがの処置を行うか自分たちで考えて行動するという午前中の講義と演習を活かして実践する場です。また、SS(サービスステーション)1は腹腔鏡のトレーニングシステムを使って、輪ゴムを移動させる、SS2ではトランシーバーを使用して情報伝達を体験するといった、普段はできないことを体験しながら楽しく学んでもらいました。また、岡山北消防署の方に協力してもらい、はしご車を使用した救助のデモンストレーション、地震体験車に乗って地震の体験や特殊車両の見学もありました。天気に恵まれ、5月でしたが炎天下のなか無事にラリーを終えることができました。



もしもあなたが倒れたら!?



～第1回岡山済生会子どもメディカルラリーの挑戦～

救急科医長 稲葉 基高

「AED持ってきたよ!」「胸骨圧迫代わってー!」「安全確認、よし!!」

晴天に恵まれた5月14日(日)、岡山済生会総合病院に、子どもメディカルラリーに参加している子どもたちの元気な声が響きました。午前中に救急科の野崎、土屋両医師から講習を受けた子どもたちが5つのシチュエーションに対処しながらその対応能力を競いました。

10チーム、30名の小学生に対して集まったスタッフは約20名の院外スタッフを含めて約75名。全てボランティアです。これだけ多くの専門職、また、病院関係者がボランティア参加してくれたからこそ、今回の子どもメディカルラリーを無事に終えることができました。

もともとメディカルラリーとはチェコ発祥の競技で、医師、看護師、救命士が5人1組のチームを作って用意されたさまざまな困難なシチュエーションに挑み、その対応について得点を競います。日本でも各地で開催されているラリーを小学生向けにリメイクして、5年前に大阪府済生会千里病院の千里救命救急センターが日本で初めての子どもメディカルラリーを開催しました。今回の岡山での開

催は、子どもメディカルラリーとしては日本で2番目となります。

私も千里子どもメディカルラリーの開催当初から関わらせていただき、ぜひ全国に広げていきたいと感じていました。何より子どもメディカルラリーは、今後の日本を担う小学生への救急法の啓発という「教育」の要素が大きく、また、保護者として見学している大人への教育啓発効果も大きいと過去のアンケートなどから実感しています。

今回の岡山済生会子どもメディカルラリーでも、我々が予測しなかったスーパーキッズの行動、活躍にスタッフも元気と勇気と活力をたくさんいただきました。

今回だけの開催で終わらず、さらによいものとして今後も継続するとともに多くの場所で開催し、1人でも多くの子どもに人を助けることの素晴らしさ、そのスキルを学んでもらえたらと感じています。20年、30年後に我々が突然倒れた時…「大丈夫ですか!？」と駆け寄ってくれるのは子どもメディカルラリー参加者かもしれません。